

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日: 8月9日(木)

会場: 川地コミュニティセンター

参加者数: 54人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>災害対応については、迅速な対応に感謝している。災害復旧後、元に戻すのはいいが、毎年同じ事を繰り返すのではいけない。防災に対する工事をしていただくのが正しいと思う。毎年同じような経験をさせていただいて防災処置がされないのはどういうことか。優先順位を決めて説明していただきたい。日本一の防災を目指して対策していただきたい。市の予算で独自の対応はできないか。</p>	<p>・国の災害補助の要件が現状復旧である。ただ、再度被災しないように復旧するということは認められている。よって、全く同じことを繰り返していることはないの で、ご理解いただきたい。さらに高機能な対応をする と、市の負担となるので、必要があれば改良事業で対 応している。今回も国の補助で対応するが、再度被災 しないような形で復旧していく。市の予算で仮設ポンプ を設置したりすることは可能だが、大きな河川は市が 管理者でないので、直接大規模改修を行うことができ ない。</p> <p>・内水対策については、現状の排水機場で対応できないものは、解消できる方法を国・県に対して毎年要望を行っている。しかし、全国的に災害が多発している中、河川予算の縮小により厳しい状況である。市として要望はしっかり行っているが、対応が遅れていることについては申し訳なく思っている。今後、内水対策については全力を挙げていきたい。</p>	
<p>旧志和地小学校の跡地問題については、3年前で教育委員会との協議が止まっており、その後、経過の説明がない。旧志和地小学校の跡地問題について説明をしていただきたい。</p>	<p>旧志和地小学校については、地域の皆さんに校庭や周りの除草作業をしていただき感謝している。保健室を事務所として利用していただいたり、給食室では地域の集会や太鼓の練習に利用してもらっている。2階と3階について、埋蔵文化財等の収蔵施設として利用することを話をさせていただいたことがあるが、明確なものではない。今後の管理・活用については、地元関係者の皆さんと協議させていただきたい。</p>	
<p>定住、健康、子育て、いろいろな言葉が並べてあるが、少数者への視点が欠けていると思う。いろいろな方がおられるので、その視点で考えないといけない。</p> <p>定住については、子育て世代に補助金をつけるのが一般的だが、子どもがいない方や、年寄りの方に対しての配慮が必要でないか。子育てについては、子どもの人口が減っているのに県立中高一貫教育校を作って、何が目的なのかわからない。中心部に良いものを作っても仕方ない。いろいろなものが中心部にあり、周辺部に住んでいると行政サービスを受けるには移動などコストがかかる。ネウボラ施設が中心部にあるように思うが、ネウボラに限らず、川地など周辺部にハード施設を作る計画があるか。</p>	<p>・県立中高一貫教育校は、希望する子どもたちが通えるように、設置を要望してきたものである。最終的には、いつかは帰ってきたい地域という思いをもってもらえるよう、みよし版わくわく体験活動など、地域や三次について学んでもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>・ネウボラは施設というより機能と捉えていただきたい。子育てに関する2つの部署が垣根を越えた仕組みとしてネウボラみよしを作っている。保健師等による妊婦の全戸訪問により状態を把握し、必要な支援を行う仕組みとしている。</p> <p>・行政には生まれてから亡くなるまで様々な時点での責任がある。ひとつのことだけを展開していくようでは成り立たない。地域にどのような課題があるか考え、将来展望を見据えて話し合いを進めていきたいと考えている。それぞれの地域で様々な取組をされており、考えていただいている。周辺に住んでいるとコストが高くなるが、いかにその地で住み続けていただけるか、交通など利便性を検討していかなければいけないと考えている。</p> <p>・三次市のまちづくりの基本的な指針となる「第2次三次市総合計画」では、めざすまちの姿を、「しあわせを実感しながら、住み続けたいまち」としている。幸せの価値観はそれぞれ異なると考えられるが、一人ひとりが幸せを実感できるよう取り組んでいきたい。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日: 8月9日(木)

会場: 川地コミュニティセンター

参加者数: 54人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>大規模な被害があれば、補助金がでるが、小規模な集落が災害に遭ったとき、補助金や援助が受けられるのかどうか伺う。</p>	<p>災害救助法など、国の基準があり、その基準に該当するかどうかによるので、この場でお答えするのは難しい。その都度基準により判断が分かれる。</p>	
<p>・今回の災害で、防災士が動いていないという意見があったようだが、防災士は消防団員が多いようで、災害時は災害対応で身動きが取れない。消防団員の育成も含めて、女性消防団員を育成したり、防災士が避難所運営ができるシステムを作っていく、自分たちのことは自分たちで行うようにしていくべきではないか。</p> <p>・板木川が氾濫し、被害が出た。小河川においても堤防が越水し、私も床下浸水の被害を受けた。県の管理河川が大きく被害を受けているようだが、橋げたが周りの堤防を壊したり、バックウォーターで被害が出ているので、浚渫や補強など、二度と起きない対策をしていただきたい。板木川は大きな石があり、それらを取ってもらい内水被害を少なくしてもらいたい。</p>	<p>・今回の災害で、防災士、自主防災組織の皆さんには課題や反省点がいろいろ出たことと思う。避難所への誘導と避難所の確保が重要と考えている。自主防災組織と防災士の方の力をお借りすることが重要で、今回十分お力を生かしきれなかったのが反省点である。それぞれの地域で話し合っていたいただき、指定避難所に限らず、どこに避難するのか考えていただきたい。</p> <p>・女性消防団員の育成について、今年度から機能別消防団員制度を新たに導入した。消防団の任務を補完する団員で、広報や災害時の後方支援など、機能を分けて活動するものである。女性消防団を含め現在募集を行っているので、活動を希望される場合は、各方面隊に申し出ていただきたい。</p> <p>・避難所を確保していくのも重要だが、それぞれの地域でどこに避難すれば命が守れるかということをお話し合っていたいただきたい。地域に帰ってきてもらうための意識をもってもらふことも必要だし、そのために教育が劣ってもいけないし、ふるさと教育もしっかり行う必要があると考えている。河川の堆積物浚渫については重要であると考えている。市の管理する河川の土砂の浚渫は、自ら予算化しなければならぬと考えている。排水ポンプについても国に強く要望していきたいと考えている。</p>	
<p>川地小学校へ180人避難しているが、行く途中も道路が冠水したりして、避難ぎりぎりの状況であった。上川立会館に十数人避難したが、避難所としては十分でない。避難所としての機能を果たせる施設が必要なので、考えていただきたい。誰もが安心して暮らせる地域づくりをめざしていただきたい。</p>		
<p>教育では、県立中高一貫教育に取り組まれて、良い大学に行けるようになるかもしれないが、市外で就職し、その後帰ってこなくなる教育ではいけない。そのためには受け皿となる会社が必要だし、ここにも働ける方向性を見出す必要がある。できれば子どもに帰って来てほしいと言いたいし、そういった気持ちも持ってほしい。そうした教育もしてほしい。</p>	<p>他の市から来て三次が好きになっている子どもがいる。それはやはり人のつながりであり、その子は三次に帰ってきたいと考えている。また地域の人を見て、地域のために働きたいと考える子どももいる。子どもたちは地域の大人の姿を良く見ている。地域の学習をする中で、家でもそういった話をしていただきたいと思う。</p>	